

城岳同窓会



那覇高ナイン甲子園へ（1960年4月）旧城岳同窓会館にて 三三七拍子で応援する初代同窓会会長小那覇全孝氏

◇城岳同窓会が結成される◇

1950年に、県立二中の職員の中から、第4代校長の志喜屋孝信先生が群馬政府知事から琉球大学初代学長に就任した。また、英語の比嘉秀平先生が群馬政府官房長に、第5代校長の山城篤男先生が文教部長にそれぞれ就任した。この3先生の合同祝賀会と、東京から帰省された桑江良行先生の歓迎会を兼ねて、沖縄県立第二中学校の戦後最初で最後の同窓会が、那覇劇場で盛大に開催された。その集会の中で「母校跡に設立された那覇高校を、県立第二中学校の母校として認定し、那覇高校の卒業生を含めた同窓会を結成しようではないか」という緊急動議が提案され、万場一

致でこれが決議された。その決議を受けて、本校教諭の森島薫祥先生（二中13期）らが中心になって、両校の同窓会代表を那覇高校に招き、両同窓会の合併についての話し合いがもたれた。そして、1953年9月5日に、両方の同窓会が合併し、新たに「城岳同窓会」の名称で結成された。初代会長には、小那覇全孝氏（二中1期）、副会長に仲村隆夫氏（二中7期）、照屋知廣氏（二中10期）、新制那覇高校卒業生代表として金城弘征氏（那高1期・二中35期）が選出された。

幸地良一著（那高2期）

「城岳同窓会50年の足跡」より



◇校歌の周辺◇

金 城 弘 征 (那覇高1期)

城岳同窓会には二つの校歌がある。旧制二中の「楚辺原頭」と新制那覇高の「世紀の嵐」である。同窓生の結びつきがいまひとつ物足りないのは、同じ校歌を共有していないからではないか、という声をよく耳にする。主として二中の先輩方からその声は聞こえてくる。おそらく首里の養秀同窓会が一つの校歌でまわっていることが羨ましいのだろうと推察している。しかし一方で、名護の南灯同窓会など、三中、三高女、名護高の三つの校歌を掲げているところもあるから、そう贅沢は言っておれない気もする。

たまたま筆者は、「楚辺原頭」と「世紀の嵐」の両方とも歌った経験をもつ戦中世代に属する。戦前、戦後の両世代の心情を理解するのもっとも有利な立場にいるわけだ。川を挟んだ兩岸の風景を公平に眺めることができるのは私たちの世代の特権なのだろう。そういう立場で二つの校歌を玩

味してみると、いろんなことが見えてくる。戦後生まれの「世紀の嵐」はどうも鎮魂歌みたいで暗い、校歌はもっと若人の意気を鼓舞するようなものであってほしい、というコメントが二中世代に多く聞かれる。しかしそのコメントの裏がわに、全体主義時代の、校歌に対する固定イメージを覗かせているのも否定できない。

あの壮絶な地上戦を生き抜いて、身も心もボロボロになって学舎に戻ってきた若もとのたち、街中が瓦礫の山と化したあけもどろ那覇の無残な姿、その中にぽつんと取り残された天妃小学校の残骸校舎、そんな状況の中ではまさに「世紀の嵐」しか生まれようがなかったと私は納得できる。廃虚の中に立って自らの真情を歌詞に託した真栄田先生、その心を深いところで受けとめて荘重なメロディーを振り付けした友利先生。こうして生まれた「世紀の嵐」を私たちは時代の証人として大切にしたいと思うのである。

同窓生だより

◇沖繩二中一九会◇

県立二中30期の仲間が戦後幾度か同期会を開催している間に会の名前をつけることになり、昭和19年卒ということで「一九会」又は「一休会」と称することにした。毎月

19日に模合(会員32名)で集まっているが35年程続いている。

卒業40周年記念全国大会を那覇で開催して以来、5年毎に日本各地の期友が一堂に会し旧

交を温め合っている。沖縄在住者の同期会は毎年「新年の集い」として行っているが、今年は1月23日「城岳同窓会館」で開催した。一九会の原点は二中であるから、その校庭や塀の見える場所が良いし、又やっと手に入れる事が出来た「同窓会館」をこの際利用し、会員の皆さんに見て貰う好機になればということで決まった。今年は丑年生まれ会員（15名）の73歳祝も兼ねて行われ、琉球舞踊、三度笠踊り、カラオケ大会等の余興で大いに盛り上がった。同期会はお互い遠慮不要で楽しく、老化防止に大いに役立ち、後十数年は継続出来るものと期待している処である。

太田 政弘（二中30期）



城岳同窓会館での新年の集い

◇◇◇那覇高等学校 灯同窓会 設立によせて◇◇◇

那覇高等学校定時制が設立されたのが、1952年8月27日で、その後、1980年3月1日の廃課程までに2,343人の卒業生を輩出した。

顧みると、私達が入学した頃は経済事情は悪く、学生の殆どが生計を立てるため、軍作業や民間の労働作業に従事しながら学校に通っていた記憶がある。このような状況を仲間同志では「定時制っ子」あるいは「定時制魂」などと呼び合い、励まし合っていた。



那覇高等学校灯同窓会 第2回総会

時の流れは早いもの1972年5月15日沖縄県民の悲願である本土復帰が実現し、その頃から社会の安定度が増すにつれ、当然の帰結かのように那覇高等学校定時制は廃課程となり、後続なき「定時制っ子」になった。

そして、16年を経た昨今においても、なお、社会の情勢は私達が学んでいた頃の現象と質こそ多少異なるが、余り変わっていない。

ここで私達が常に自己の存在を認識し、色々な事象に対処する能力を自然に培っていた。これが正に「アイデンティティ」というものかも知れない、このことを踏まえ、「定時制っ子」に呼びかけたところ、多くの賛同を得て、平成8年2月14日那覇市内のゆうな荘で約240人の同窓会員が、会場をあふれんばかりの盛況の中「那覇高等学校灯同窓会」が設立された。これは、当時私達を親身に育ててくれた恩師の方々の力添えや城岳同窓会の後援があったことと、心より感謝し、灯同窓会がますます飛躍していくことを祈念します。

島袋 圭介（灯同窓会会長）

◇那覇高校ニュース◇

高校新人体育大会は平成8年11月2日から5日までの日程で行われた。本校は14種の競技に男子124名、女子117名の選手が参加した。種目ごとの団体戦では、全員1年生で小柄な体格ながら、初出場で初優勝を飾った女子柔道を筆頭に、女子テニス準優勝、女子空手道組手準優勝、男女水泳総合2位、女子剣道3位とよく健闘した。また、個人の部では、女子柔道52kg級での具志堅優子(1年)さんの優勝をはじめ、水泳や剣道において上位入賞を果たした。

沖縄タイムス社主催、図画・作文・書道コンクールの図画の部においては、最優秀1名、優秀3名、優良8名が上位入賞した。作文の部では最優秀1名、優秀3名、優良4名が上位入賞した。書道の部の上位入賞者は、優秀4名、優良31名であった。

吹奏楽部は県吹奏楽コンクールにおいて金賞を受賞し、九州に派遣された。九州においては銀賞を受賞した。合唱部は県大会において金賞を受賞した。

平成9年3月1日に卒業した生徒の進路状況は県内国公立47名(琉大45、芸大2)、県外国公立8名、県内私大48名(沖国大31名、沖大5、名桜12)、県外私大104名(指定推薦40)、県内短大26名(キリ短15、沖女短10、沖短大1)、看護学校21名(浦看14、沖看2、北看1、県外4)となっている。さらに、各種専門学校64名、外国留学等4名、就職内定者18名(公務員試験合格者4名となっている)。



事務局より

◆募金活動にご協力を!

募金に協力下さいましたみなさんへ感謝申し上げます。

ただ今、財務委員会(委員長:真栄田司)が中心となって、同窓生の関係する企業や同窓会員のみなさんへ3千万円を目標に募金の協力を呼びかけています。

前期(平成8年4月~平成9年3月)の募金状況は

二中卒	1,162,000円
那覇高卒	9,633,293円
合計	10,795,293円となり

目標達成率は35.98%で良くありません。

募金最終期間は来年3月です。母校の創立88周年記念事業を成功させるために、同窓生みなさんの絶大なご協力を、是非お願い致します。

◆会報への投稿をよろしく!

城岳同窓会「会報」の発行を創立88周年の年(平成10年)までは、年2回、その後は1回計画しています。

会員のみなさん!
ふるってご投稿下さい。

◆同窓会終身会費納入について

平成6年度の定期総会において、決まりました同窓会終身会費の納入を受け付けております。納入のまだの方はご協力よろしくお願い致します。

城岳同窓会会報

編集発行 創立88周年記念事業期成会
総務委員会(委員長:神谷 尚)
〒900 沖縄県那覇市松尾1-21-53
電話 098-867-2525